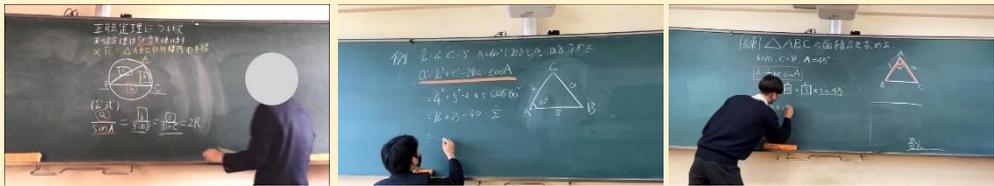


事例名			
とある南丹高校1年6組の生徒が数学の授業をしてみた			
校種・学年	高等学校・1年		
教科・科目・単元・題材	数学科・数学I 第4章 図形と計量(数研出版)		
学校名<任意>	京都府立南丹高等学校	事例報告者氏名<任意>	北川 拓歩
機能名(アプリ名)	iPad(カメラ機能)		
ICT活用のポイント			
<p>生徒が自身のiPadを活用し、既習事項についてYouTuberさながらに先生役として解説する授業動画を制作した。班で協力しながら撮影と見直しを繰り返すことで、試行錯誤や改善が促され、主体的な学習活動につながった。</p>			
活用場面			
<p><b>【授業の概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「正弦定理」「余弦定理」「三角形の面積」の3つのグループに分かれる。</li> <li>・各グループで、公式解説担当、例題解説担当、練習問題解説担当を決め、黒板を使って授業の様子を動画で撮影する。</li> </ul> <p>①原稿・板書計画の作成(2時間)</p> <p>板書計画を立てさせる。教科書や授業のノート、インターネット等を使いながら、どのように授業を展開するかを考えさせる。グループ内で練習を行い、他の生徒や教員からの指摘を受け、改善をする。</p> <p>②撮影(2時間)</p> <p>動画を自身のiPadで撮影をする。生徒は撮影した動画を教員に提出をし、最終チェックを受ける。改善の必要があれば、指示を受け撮り直しする。最終的に教員が全員の動画をつなぎ合わせ、1本の動画にする。</p> <p>③動画お披露目(20分)</p> <p>完成した動画を見る。</p>			
			
授業者のコメント・児童生徒の主な反応等			
<p>どの生徒もとても楽しんで動画制作にあたり、主体的に取り組んでいた。撮影を始めると緊張してうまく話せない生徒もいれば、個性あふれる授業を展開した生徒もいた。話し方や板書の仕方など、何度も撮り直しながらより良い動画にしようと前向きに取り組んでいた。完成した動画を視聴したときは、他のグループがどのような動画を作ったのか、自分が作った動画が周りにどう評価されるのか反応をうかがったりしていた。</p>			